

速報

平成28年7月29日

公益財団法人 日本英語検定協会

高校生

1級・準1級・2級の受験者数、および合格率

昨年度同回次より大幅アップ!!

～4技能のバランスの良い学習の成果も顕著～

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区、以下「英検協会」）は、このたび終了した2016年度 第1回 実用英語技能検定（一次試験日：6月12日 二次試験日：7月10日）と前年度同回次（2015年度第1回）の試験結果を比較分析いたしました。その結果、特に高校生での2級（高校卒業レベル）以上の級の受験者数、ならびに合格率が大幅にアップしましたので、速報として報告いたします。

1. 一次試験（RLW技能）における高校生の受験状況

■2016年度 第1回一次試験（RLW技能） 高校生の受験者数および増加人数・増加率

級	一次試験 受験者数	増加人数（前年度 同回次比）	増加率（前年度 同回次比）
1級	1,160人	324人増	39%増
準1級	12,285人	3,787人増	45%増
2級	84,741人	9,695人増	13%増

■2016年度および2015年度 第1回一次試験（RLW技能） 高校生の合格率

級	2016年度 第1回検定 一次試験 合格率 (%)	2015年度 第1回検定 一次試験 合格率 (%)
1級	44.0%	23.0%
準1級	18.0%	15.0%
2級	34.0%	27.0%

2. 二次試験（S技能）における全体の合格率 ※1

※1 本来であれば高校生の合格率を掲示するところであるが、解析中であり、全体での合格率を速報値として記載

■2016年度 第1回 二次試験（S技能） 合格率

級	2016年度 第1回検定 二次試験 合格率 (%)	2015年度 第1回検定 二次試験 合格率 (%)
1級	66.2%	66.2%
準1級	89.8%	89.1%
2級	80.4%	83.9%

二次試験（S技能）の合格率は昨年とほぼ同じである。

なお、今回と昨年度同回次の検定の難易度は、IRT(Item Response Theory) 理論等に基づき、均質であることを検証済みです。

■今回の結果

- ・高校卒業レベルの2級よりも上位級である、準1級ならびに1級の受験者数の増加率が高い。
- ・2級以上の上位級での合格率が上昇しており、特に、最上位級である1級においては5割弱の合格率を示していることから、高校生における、一次試験で評価される3技能（RLW）の英語能力が著しく向上している。
- ・1級、準1級、2級の一次試験（RLW技能）において、高校生の合格率が上昇している。二次試験（S技能）の合格率は昨年とほぼ同じであるため、高校生の英語の4技能（RLWS）が、バランス良く向上したと考えられる。

この結果に至った要因として、英検協会では、文部科学省が平成25年度から年次進行で実施している「授業を英語で行うことを基本とする」とした高等学校の学習指導要領や、第2期教育進行基本計画^{※2}の趣旨が教育現場に広く浸透している成果の表れと推察いたします。

全国の英語の先生方は4技能をバランスよく取り入れた授業をおこない、生徒達は授業のなかで英語で「話す」・「書く」習慣を養う取り組みを通し、英語でコミュニケーションが取れる喜びや英語への興味・関心が増していることがうかがえます。それにより学習意欲が高まり自分自身の英語力に自信を持った生徒達が、その実力を試したいとの思いで実用英語技能検定をより高い級で受験されたのではないかと、そして実際に、今回の高校生の2級（高校卒業レベル）以上の上位級で合格率が目覚ましく上昇していることから、4技能を統合した授業を受けている生徒達の英語力は向上していると英検協会では判断いたします。

なお、本リリース以外にも、第1回検定の試験結果を多角的に分析しており、それらにつきましても随時ご報告申し上げます。

^{※2} 平成 25 年度（2013 年度）第 2 期教育振興基本計画（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）におきまして、文部科学省は、中学生と高校生の英語力を、平成 29 年度（2017 年度）までに、中学校卒業段階で実用英語技能検定 3 級程度、高校卒業段階で準 2 ～ 2 級程度以上を達成した生徒の割合を 50%以上とすることを成果目標に掲げています。